

公益財団法人 サントリー芸術財団 音楽事業部

107-6019 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル19階 私書箱509号 Tel: 03-3582-1355 Fax: 03-3582-1350

Nosfa0067 (2026.3.24)

第57回（2025年度）サントリー音楽賞は 佐藤 俊介氏（ヴァイオリン／指揮）に決定



©eduardus_lee

公益財団法人サントリー芸術財団（代表理事・堤 剛、鳥井信吾）は、わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた個人または団体に贈る「サントリー音楽賞」の第57回（2025年度）受賞者を佐藤 俊介（さとう しゅんすけ）氏に決定しました。後日贈賞式を予定しています。

●選考経過

2026年1月11日（日）国際文化会館において第一次選考を行い、候補者を選定した。引き続き2月15日（日）国際文化会館において最終選考会を開催。慎重な審議の結果、第57回（2025年度）サントリー音楽賞受賞者に佐藤俊介氏が選定され、3月11日（水）の理事会において正式に決定された。

●賞金 700万円

●選考委員は下記の8氏

伊東信宏、柿沼敏江、片山杜秀、鈴木雅明、寺西基之、船木篤也、松本良一、
吉田純子（敬称略・50音順）

<贈賞理由>

古楽か、モダンか。佐藤俊介は、そうした問いや対立を、過去のものにする可能性を秘めたパイオニアである。

奏法、楽譜、楽器、そうした過去のものに対する敬意と健やかな好奇心を、無限の創造の糧とする。そんな古楽の究極の目的は、人間の普遍性の探究といえるだろう。国境や時代を超え、「人間」そのものを掘り下げる。ゆえに、多様性の宝庫となる。

佐藤は10代の頃、米国で古楽への関心を抱いた。研鑽ののち、今は古楽器とモダン楽器の両方を、分け隔てなく自身の声としている。卓越した国際感覚と語学力も、世界中の音楽家との柔軟なコミュニケーションを促進する礎となった。オランダ・バッハ協会第6代芸術監督を経て、演奏、指揮、指導、教育を通じ、世界各地で自らを飛躍させつつ、次代の才能を育てている。

そうした歩みが昨今、日本の音楽シーンにもさまざまな恵みをもたらしている。東京交響楽団への客演は、聴衆以上に奏者たちにセンセーショナルな目覚めをもたらした。東京藝大チェンバーオーケストラへの指導、およびみずみずしい即興精神にあふれるスリリングな弾き振りは、若い奏者たちの視野を大きく世界へと開かせ、音楽に生きる人生の幸福を再認識させるものとなった。フォルテピアノのスーアン・チャイと各地で敢行したベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全曲演奏も、遊び心と挑戦心を前面に出し、受け身ではない能動的な「聴き方」を聴衆に提案。音楽業界を大いに触発した。

そして昨年、満を持してロマン派以降の音楽を主な対象とする古楽オーケストラ「Past Forward Ensemble (PFE)」を創設。今年5月、独ケルンで船出する。過去へと向かう探究心を、未来を編む力とする。そんな志を託された名称の通り、あらゆる偏見や先入観を取り払い、より自由な精神で、音楽と人々を連ねてゆくことを目指している。

分断に歪み、混迷を深めるいまの時代において、佐藤は芸術家にしかできないことをきわめてアクチュアルに示し続けている。楽しむだけではなく、思考を突き動かすためにこそ、音楽を。今回の贈賞は、そうした佐藤のビジョンを照らし、クラシック音楽の未来の一翼を担うひとりとして、今後の歩みへの期待を示すものである。

(吉田純子委員)

<略 歴>

佐藤 俊介（さとう しゅんすけ）

ヴァイオリニストであり、指揮者、室内楽奏者、ソリスト、指導者でもある佐藤俊介の多様さは、彼の多才で臨機応変な性格を反映しているといえるだろう。ピリオド奏法に裏打ちされた活動は彼のアイデンティティの中核をなすものであり、音楽の中に身を置き、劇的かつ啓示を与えるような方法で聴衆とコミュニケーションをとることを可能にしている。世界各地のピリオド楽器アンサンブルやシンフォニック・オーケストラを指揮し、ソリストとしても出演している。

2013年から23年まで、オランダ・バッハ協会のコンサートマスターを、18年からは音楽監督を兼務し、2019年9月から10月に行われた同管弦楽団の日本ツアーを成功させた。録音したJ.S.バッハのカンタータや器楽作品の数々は、オランダ・バッハ協会のYouTubeで見ることが出来る。<http://www.youtube.com/bach>
2011年からはコンチェルト・ケルンのソリスト、指揮者、コンサートマスターを務めている他、オーストラリア・ブランデンブルク管弦楽団、東京交響楽団、ハーグのレジデンティ・オーケストラ、セビーリャのオーケストラ・バロックなどから客演指揮者として定期的に招聘されている。

2013年から、アムステルダム音楽院の教授としてヒストリカル・ヴァイオリンを教えている。

録音では、「グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ集」や、「テレマン：無伴奏ヴァイオリンのための12の幻想曲」、また、パガニーニの作品を世界で初めてガット弦とバロック・ボウを使った歴史的奏法で録音した「パガニーニ：24のカプリース op.1」や、「J.S.バッハ：無伴奏ソナタ&パルティータ（全曲）」（Acoustic Revive）等。最新アルバム「BEE1HOVEN ～ ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ全集」は、新レコード・アカデミー賞第1回大賞に輝いた。

2010年、ライプツィヒの第17回ヨハン・セバスティアン・バッハ国際コンクールで第2位および聴衆賞受賞。出光音楽賞、S&Rワシントン賞受賞。2019年度 第61回毎日芸術賞、第70回芸術選奨 文部科学大臣新人賞を受賞。

〔ニュースリリースに関するお問い合わせ・広報用画像お申し込み〕

公益財団法人サントリー芸術財団 音楽事業部

ongakujigyo@suntory.co.jp

TEL：03-3582-1355（平日10：00～17：00）

FAX：03-3582-1350

以 上

(ご参考)

サントリー音楽賞および受賞記念コンサートについて

公益財団法人サントリー芸術財団では、1969年(昭和44年)の鳥井音楽財団設立以来、わが国における洋楽の振興を目的として、毎年、その前年度においてわが国の洋楽文化の発展にもっとも顕著な功績のあった個人または団体を顕彰し、「サントリー音楽賞」(旧名・鳥井音楽賞)を贈呈しています。賞金は700万円です。

また、サントリー音楽賞受賞者・受賞団体の業績を改めて紹介するため、記念の演奏会を開催しています。

これまでに「サントリー音楽賞」を受賞した方々は下記の通りです。

第1回	1969年度	小林 道夫 (ピアノ・チェンバロ・指揮)
第2回	1970年度	堤 剛 (チェロ)
第3回	1971年度	三谷 礼二 (オペラ演出)
第4回	1972年度	小川 昂 (理論・評論)
第5回	1973年度	ICUオルガン委員会 (国際基督教大学)
第6回	1974年度	秋山 和慶 (指揮)
第7回	1975年度	栗林 義信 (声楽) 山根 銀二 (評論)
第8回	1976年度	芥川 也寸志と新交響楽団
第9回	1977年度	常森 寿子 (声楽)
第10回	1978年度	松村 禎三 (作曲)
第11回	1979年度	吉原 すみれ (打楽器)
第12回	1980年度	妹尾 河童 (舞台美術)
	特別賞	江戸 英雄 (第1回日本国際音楽コンクール会長)
第13回	1981年度	柴田 南雄 (作曲)
第14回	1982年度	外山 雄三 (指揮)
	特別賞	原 清 (ザ・シンフォニーホール建設グループ代表)
第15回	1983年度	鈴木 敬介 (オペラ演出)
第16回	1984年度	豊田喜代美 (声楽)
第17回	1985年度	日本テレマン協会 (室内管弦楽団・合唱団)
第18回	1986年度	内田 光子 (ピアノ) 若杉 弘 (指揮)
第19回	1987年度	岩城 宏之 (指揮)
第20回	1988年度	林 康子 (声楽)

第21回	1989年度	有田 正広 (古楽演奏)
第22回	1990年度	武満 徹 (作曲)
第23回	1991年度	尾高 忠明 (指揮)
第24回	1992年度	練木 繁夫 (ピアノ)
第25回	1993年度	五嶋みどり (ヴァイオリン)
	特別賞	ウォルフガング・サヴァリッシュ (指揮)
第26回	1994年度	和波 孝禧 (ヴァイオリン)
第27回	1995年度	今井 信子 (ヴァイオラ)
第28回	1996年度	園田 高弘 (ピアノ)
		湯浅 譲二 (作曲)
第29回	1997年度	東京交響楽団
第30回	1998年度	林 光 (作曲)
第31回	1999年度	三善 晃 (作曲)
第32回	2000年度	飯守泰次郎 (指揮)
第33回	2001年度	一柳 慧 (作曲)
第34回	2002年度	小澤 征爾 (指揮)
		木村かをり (ピアノ)
第35回	2003年度	野平 一郎 (作曲、ピアノ)
第36回	2004年度	西村 朗 (作曲)
第37回	2005年度	鈴木 秀美 (チェロ・指揮)
第38回	2006年度	東京混声合唱団
第39回	2007年度	細川 俊夫 (作曲)
第40回	2008年度	小山 由美 (声楽)
第41回	2009年度	大野 和士 (指揮)
第42回	2010年度	渡邊 順生 (チェンバロ)
第43回	2011年度	該当者なし
第44回	2012年度	藤村 実穂子 (声楽)
第45回	2013年度	鈴木雅明とバッハ・コレギウム・ジャパン
第46回	2014年度	広上淳一と京都市交響楽団
第47回	2015年度	トッパンホール
第48回	2016年度	小菅 優 (ピアノ)
第49回	2017年度	読売日本交響楽団
第50回	2018年度	高関 健 (指揮)
第51回	2019年度	河村 尚子 (ピアノ)
第52回	2020年度	三輪 眞弘 (作曲)
第53回	2021年度	濱田 芳通 (指揮・リコーダー・ホルネット)
第54回	2022年度	井上 道義 (指揮)

第55回 2023年度 近藤 譲（作曲）

第56回 2024年度 山田 和樹（指揮）

特別贈賞 1979年6月 巖本真理弦楽四重奏団

” 1997年8月 黛 敏郎（作曲）

以 上